

## 東北夏祭り

青森「ねぶた祭り」秋田「竿燈まつり」盛岡「さんさ踊り」と、北国の夏祭りを堪能すべく  
2泊3日のツアーリーに参加しました。



ねぶた

「ねぶた祭り」は毎年8月2日から7日迄の6日間、青森市内の目抜き通りで行われる夏祭り。祭りの発祥は、穢れ（けがれ）を川や海に流す禊（みぞぎ）の行事として、無病息災を祈る七夕祭りの灯籠流しの変形と言われるが、起源は定かではない。祭り開始の打ち上げ花火の合図で、20数台の「ねぶた」という人形の大型灯籠が、大音響の笛・太鼓とともに「らっせらっせ」の掛け声を発しながら跳ねまわる「ハネト」と呼ばれる踊り子を伴い登場します。ねぶたは企業・学校・諸団体が製作し、高さ5m・幅9m・奥行き7m・重さ4tにも達し、製作費は1台2千万円ともいわれています。主役の「ねぶた」と踊り手の「ハネト」並びに調子のよい「お囃子」が三位一体となってこの祭りを盛り上げています。陸奥の暑い盛りを、豪快と幻想と幽玄の世界に浸ることが出来ました。期間中350万人を超える観客が訪れます。

「竿燈まつり」は250年以上の歴史を誇り、例年8月3日～6日の4日間開催され、今年は延139万3千人の観光客が訪れたと発表されました。昔から眠っている間に病魔やもののが体の中に入り、病気になると考えられていました。そこで火を焚き太鼓をたたいて「ねむり」を払い、眠り病防止の行事として受け継がれてきたのだそうです。一説によると、暑い時期の怠けによる「うたたね」防止だともいわれています。秋田市中心部の「竿燈大通り」に夜の帳がおりる頃、賑やかな笛・太鼓とともに「ドッコイショードッコイショ」の掛け声の中、右へ左へと揺れ動く竿燈を、手のひらや額・肩・腰等で支えてバランスを取り見事に操る差し手衆が現れます。その妙技に観客から思わず感動の声があがります。全体を稻穂に46個もの連なる提灯を米俵に見立てた竿燈は、最大で高さ12m、重さ50Kになります。今年はその竿燈の数が過去最多の261本も上がり、総計1万個以上の提灯の明かりは、まるで天の川が地上に降り立ったような幻想的な雰囲気を醸し出しました。



さんさ踊り

「さんさ踊り」は今年で35回目を迎える比較的新しい祭りです。

本年も8月1日～4日の4日間、夜の盛岡市中心部パレードと昼は市民文化ホールで開催されます。吾々は日程上昼しか見る事ができませんでしたが、どうも阿波踊りの様なものが基本になっていると感じました。その昔、盛岡城下で羅刹鬼（らせつき）という鬼が悪さをして暴れ、困り果てた里人達は、悪鬼の退治を祈願しました。神様はその願いを聞き入れ悪鬼どもを捕え追放した為、喜んだ人々は、神社のまわりを「さんささんさ」と踊り回ったのが「さんさ踊り」の始まりだと言われています。

以上それぞれ趣きの異なる夏祭りを観賞しましたが、個人的には「ねぶた祭り」に軍配を揚げつつ、来るべき長い冬に備え短い夏を謳歌する陸奥の人達の生きざまを垣間見た旅でした。

## 編集後記

33年卒 山口きよみ

日中の暑さは厳しくても、朝夕はしのぎやすくなつてしまいりました。

節電の夏でもあり、オリンピックに湧いた夏でもありました。

一方で温暖化の影響と言われるゲリラ豪雨の被害があちこちであります。災害列島を憂えずにはいられません。また、原発再稼働に反対する国会を取り巻くデモ等いろいろ考えさせられる出来事もありました。

皆様はいかがお過ごしでしたか？スポーツ音痴の私でもオリンピックから団結することで生まれる力や多くの感動をもらいました。

涼しくなったら、またウォーキングを再開したいと思っています